

「ムーミンと絵画 - トーヴェ・ヤンソンの世界」 (2020年6月2日～9月20日)

世界中で愛されているムーミンの生みの親、トーヴェ・ヤンソン (1914～2001年) は、優れた挿絵家であり、画家、そして作家でもありました。彼女を一躍有名にしたのは、1940年代に始まるムーミン・シリーズです。その第1作「小さなトロールと大きな洪水」は、第二次世界大戦後の1945年に出版されますが、作者によれば、冬戦争中の1939～40年にすでに書き始められていました。ムーミンの世界の魅力は、ムーミンたちの穏やかで思いやりのある世界観にあります。ムーミン屋敷には、トーヴェの子供時代の家のほか、ヘルシンキのカタヤノッカ地区の塔の形をしたアール・ヌーヴォー建築、ストックホルム近郊の休暇を楽しんだ祖父母の島ブレド、そしてポルヴォー沿岸のペッリング群島で過ごした少女期の夏の日々の影響が見られます。

画家 トーヴェ

絵画は、トーヴェ・ヤンソンの別の一面を表す重要なものです。彼女は色彩豊かなフランスのモダニズム絵画を踏襲しています。1914年、トーヴェは自由な雰囲気のある芸術家一家に生まれます。父ヴィクトル・ヤンソンは彫刻家、スウェーデン出身の母シグネ・ハンマルステン＝ヤンソンは挿絵家でした。1929年、早くも15歳でトーヴェの挿絵が、風刺雑誌「ガルム」に掲載されています。そして翌年、ストックホルムの美術学校で学び始めます。この頃、ムーミントロールの初期の物語が誕生しています。冷蔵庫から夜食をつまみ食いしていたトーヴェは、叔父から、夜中に冷蔵庫に近づくと、ムーミントロールが現れて、首筋に冷たい息を吹きかけられるぞと注意されるのです。トーヴェは、3年間ストックホルムで美術を学び、挿絵家、広告デザイナーになります。

1933～37年、トーヴェはヘルシンキのアテネウムで美術の勉強を続けます。1936年春には、タハティトルニ通りに、友人4人と共同アトリエを構えています。そして1937年秋から、クロッキー、すなわち速写を学ぶために、アートフリースクールへ毎夜通い始めます。このフリースクールの生徒サム・ヴァンニは、トーヴェの親しい芸術家の友人であり、実際には先生でもありました。

1938年、トーヴェはパリで美術、特にクロッキー・スケッチの勉強を続けます。このパリ時代の作品に、画家アドリアン・ホリーのアトリエ・スクールで描かれた「若い女性の肖像」があります。この作品は、1939年4月にヘルシンキで開催された年次美術展で、トーヴェの主要作品になっています。この美術展には、同じくフランス時代の作品で、芸術家に人気のブルターニュの海岸で描かれた「青いヒヤシンス」も出品されています。

トーヴェ・ヤンソンは、作品に必ずファーストネームの「トーヴェ」とサインをしました。肖像画は自分や家族、友人をモデルに描いています。作品「自画像と籐椅子」(1937年)には、特に芸術家としての技術や自我が表れています。トーヴェの時代、画家はまだ男性の仕事とされ、女流画家は先駆的存在でした。後にトーヴェは、抽象的表現を用いた静物画にも挑戦しています。また故郷ヘルシンキについて、都市を題材に描くこともしています。1943年に画廊で開かれた若手画家の初個展は、好評を博しました。1944年夏、トーヴェはウッランリンナ通りのアトリエ兼住宅へ転居し、成功してもそこに住み続けます。夏の家は、1990年代半ばまで、ペッリング群島のクルーヴ島にありました。パートナーでグラフィック・アーティストのトゥーリッキ・ピエティラも、この島での生活を満喫しています。

トーヴェ・ヤンソンは、絵画でも空想の世界に魅了されていました。そのことは依頼された大作に多く表れています。ムーミン・シリーズは、子供向けのおとぎ話の世界ですが、トーヴェにとっては、シュールレアリズムの空想の世界でもありました。さまざまな公共作品やフレスコ画、そして絵画にも、その空想の世界を見ることができます。トーヴェはレストランや学校、幼稚園、教会のフレスコ壁画も手掛けています。

挿絵家と作家

トーヴェ・ヤンソンは、1940年代から、挿絵のアルバイトと画家の仕事のバランスを取っていました。挿絵を描くことで、自然と文章も書くようになり、さらに海外での漫画家の草分けとしての仕事へと繋がることとなります。

ムーミン・シリーズ1作目の「小さなトロールと大きな洪水」（1945年）のキャラクターは、1939年から40年にかけての冬戦争のさなかに、すでに生まれています。そして1946年に「ムーミン谷の彗星」、1948年に「楽しいムーミン一家」が出版されます。この展覧会では、主に「ムーミン谷の仲間たち」（1962年）と「ムーミンパパ海へいく」（1965年）の挿絵をご覧いただけます。ムーミンの世界の魅力は、安全な状態と大惨事の間で起こる絶え間ない緊張にあります。ムーミン、ヘムレン、ミムラ夫人、フィリフヨンカたちがさまざまな冒険に巻き込まれますが、それにも関わらず、どの物語にも心地良さや安心感が強く感じられます。

トーヴェ・ヤンソンの漫画家としての出発点は、1953年のイギリスの新聞社社長からの連絡でした。夕刊紙「イヴニング・ニュース」へのムーミンの連載を依頼されたのです。この漫画は子供向けというより、ムーミンたちが文明化されたライフスタイルを風刺したりするものでした。数年後、トーヴェは、弟のラルス・ヤンソンに漫画のセリフをまかせるようになります。そして1959年まで自ら描いていた漫画も、それ以降はラルスに引継がれます。

友人で舞台演出家のヴィヴィカ・バンドラーを通じて、トーヴェは舞台の世界にも足がかりを得ます。1949年12月に「ムーミン谷の彗星」が初演され、舞台美術もトーヴェが担当しています。そして続けて、フィンランド国立歌劇場やリッラ劇場などの、子供向け演劇の舞台美術や衣装を手掛けています。

ムーミン・シリーズは、アメリカ、イギリス、カナダ、中国、日本、ドイツ、フランス、スカンジナビアの国々を始め、世界各国で出版されています。日本ではすでに1960～70年代に、翻訳出版されています。ムーミンは、今では小さな子供から大人まで、世界中で親しまれています。